

祈るときには 詩篇 143:1-12

2023. 6. 4、丘の上 NO. 701

春日部福音自由教会 山田豊

先週の日曜日は、聖霊降臨日、教会の誕生を記念する日でした。聖霊が弟子たちに下り、ペテロの説教を聞いた人たちが悔い改めてイエスを信じ、教会が生まれたのでした。教会は聖霊によって生み出されたと言っているのですが、そこには信者たちの祈りがありました。

教会が生まれる前から彼らは祈っていました(使徒 1:14)。また、教会が生まれると、毎日祈るために集まっていました(使徒 2:42)。イエスは祈りを教えてくださったのですが、祈りは旧約聖書の時代からありました。

この詩篇の作者は、暗い穴に閉じ込められるようであったり、地に打ちのめされるような苦しみの中にありました。しかしそのような中で、作者は神に祈り(1,2)、自らの苦しみを訴え(3,4)、神と自分自身のことを思いめぐら(5,6)し、自分の願いを神に訴えているのです(7-12)。本詩篇は悔い改めの詩篇の一つとされていますが、祈りの詩篇と言っても良いと思います。

この中の5,6節は黙想の部分です。ここには、思い起こす、思いを巡らす、静かに考える、という3つの言葉がつかわれています。同じような意味だと言えないことも無いのですが、ヘブル語聖書では三つの違う単語が使われているので、少しずつその意味は違うのでしょうか。丘の上会堂を会場にして、静まりのセミナーが来月行われます。祈りは、しずまって自らのことを思い起こす、ここから始まると言えるでしょう。

イエスは弟子たちに「祈るときには」と言って、祈りを教えてくださいました。生涯の中で、何度も弟子たちに教えられたり、一緒に祈りをしたこともあったでしょう。丘の上の祈り会では、今月から「主の祈り」を学び始めました。イエスが教えてくださったのは、祈りの時に唱える言葉だけではなくはずです。祈るときには、まず一人静かな時間と場所を確保することです。この姿勢が、祈りの基本です。そして初代教会の人たちのように、祈るときには仲間と一緒にいることです。一人で祈っていても、教会の一員であるという意識は持てますが、実際に時間と空間を共有することによって、ともに祈ることの祝福を体験できるでしょう。

何よりも、イエス自身が言われました。「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」と

詩篇の作者は、神の真実と義の故に、神に思いを向けて祈り続けていった、そのような心を私たちも持っていきたいのです。

引用聖句

ローマ 3:20-22 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与え

詩篇 42:1 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように神よ私のたましいはあなたを慕いあえぎます。

新共同訳

潤れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。

使徒 1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

使徒 2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

マタイ 18:20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」